巻頭特集 60年以上続く三八市で盛り上がる地域交流

寺町通り商店街

桑名別院の門前町として形成された寺町通り商店街。月6回開催される三八市には、子ども連れの家族から高齢者まで多くの人が訪れます。朝9時からにぎわう商店街は、和気あいあい。買い物客は、店主との会話を楽しみながらたくさんの品を購入しています。昔ながらの雰囲気を保ち、多くの人を魅了している寺町通り商店街には、先代から受け継いだ心意気が根付いています。

1_アーケードが門前町らしいデザインになったのは、2005(平成17)年。古い町並みを生かしつつ、アーケードは低く、一本道でありながら緩いカーブを描いています　2_アーケードができる前の商店街。桑名別院の縁日が開催されていた時には、歩けないほどのにぎわいを見せていました　3_アーケードができたのは、1957(昭和32)年。当時は商店街の両入り口に立派な看板がありました

60年以上続く三八市が古き良き商店街を守る

名古屋のベッドタウンとして発展し、主要道路沿いには、多くの大型量販店が出店する桑名市。寺町通り商店街周辺は、かつて桑名の中心地でした。真宗大谷派別院（桑名別院）を中心に10以上の寺院が点在するなど、昭和初期には門前町として発展。最盛期には南北260メートルの中に50店舗あったといいます。

「今なお、多くの店が商売を続けられているのは、三八市を残してくれた先人のおかげですね」と話すのは、株式会社日永屋代表取締役の佐藤博之さん。現在、寺町通り商店街振興組合の理事長を務めています。

三八市がはじまったのは、1953（昭和28）年。戦後間もないころ、旧多度町の街道沿いで開催されていた朝市を商店街でも開こうと、海津の生産者5人に依頼して野菜を持ってきてもらい、スタートしました。「出店する農家さんたちは、自転車いっぱいに野菜を乗せ、中提を走って桑名に来ていたそうです」と話すのは、塩良呉服店の渡辺武久さん。「新鮮な野菜が安く買える」と、評判は広まっていったといいます。自転車に乗る量だけの野菜はすぐに売り切れ。渡船を使って野菜を運んでいたこともありました。

昔ながらの温かい商店街で盛んに行われる地域交流

正月を除く3と8がつく日は、毎回開催されている三八市。月に6回、1年間で70回以上を数えます。現在は、商店街の35店舗に加えて、生産者と露店商約50軒が参加。通りの端から端まで余すことなく商品が並んでいます。

平均5000人、多い時では1万5000人が訪れる人気の朝市。朝9時ごろからにぎわいを見せ、10時を過ぎるとピークを迎え、11時になると売り切れる商品が続出しています。「商店街全体の定休日である月曜日でも、三八市の日なら店を開けます。開催日が固定されているので覚えやすく、通り全体がアーケードで覆われているから雨も気にならないのが、地域に定着している理由だと思います」と佐藤さん。三八市限定商品などが発売されたり、新しいジャンルの店が出店したりと、回を重ねるたびに魅力が高まっています。

現在は海津の生産者のほか、桑名市はもちろん、四日市や岐阜県などからも出店者が集います。祖父の後を受け継ぐ海津市の後藤ひとみさんは、「普段は市場に出荷しているため、どこでも買えるのにわざわざ来てくれるのがうれしい。三八市の出店はストレス解消になっていて、とても楽しいです」と笑顔をみせます。

また、寺町通り商店街では、桑名市全ての小学校の社会見学を受け入れています。「これつけとくわ」「100円でいいよ」など、会話から生まれるおまけや値引きなどは、一般的な商業施設では見られない貴重な光景。会話を楽しみながら商品を購入できる商店街の魅力を伝えています。

不易流行の考えで常ににぎわう商店街へ

朝市終了後には一気に静かな商店街に戻ってしまう寺町通り商店街。振興組合では、新しい風を吹き込もうと、10年前からさまざまな活動に取り組んできました。

60歳以上を対象としたふれあいカードは、商店街の各店でサービスが受けられるもので、現在3000人以上が利用しています。

若いファミリー層に商店街の魅力を伝えようと始まったのが、十楽市（じゅうらくいち）。室町時代に商人たちが開いた「十楽の津」と呼ばれる自由湊にちなんで命名されたイベントは、毎月第3日曜に開催しています。親子を対象としたマルシェやワークショップ、大道芸、夜市などを開催し、毎回1000人以上を集客。「社会見学で来てくれた小学生が、親に商店街の魅力を伝えてくれています。高齢者だけでなく、子どもたちも楽しめる商店街になっています」。

「商店街が続いているのは、各店にお客さんが付いている証明。全国にはSNSや食べ歩きなどで、かつてよりもにぎわう商店街があります。商店街の魅力を多くの人にどんどん広めていきたい」と話すのは振興組合の専務理事、坂英郎（ひでお）さん。「昔ながらの雰囲気を気に入ってくれている人も多いので、古き良き風景やコミュニケーションを大切にしながら、さまざまな取り組みを進めていきたいです」と続けます。

ここにしかない雰囲気と人情で、多くのファンを持つ寺町通り商店街。12月には、大売り出しも予定されています。たくさんの人が笑顔で交流を楽しめる商店街で、年末の買い物を楽しんでみてはいかがでしょうか。

子どもから高齢者までの衣料品やインテリア、洋裁服地用品などを販売する日永屋を経営。小学生の社会見学やメディア取材を快く引き受け、商店街を盛り上げている

寺町通り商店街振興組合理事長
株式会社日永屋代表取締役 佐藤博之さん

明治元年創業の仏壇・仏具・墓石店の5代目。「私のような中間層が少ないので、幅広い世代の人に出店してもらい、商店街を盛り上げてほしい」と意気込む

寺町通り商店街振興組合専務理事
仏壇の福井屋専務取締役 坂英郎さん

今ではなかなか手に入らない上質な半纏などを販売。「三八は出会いの場所。地域には寺町ファンクラブもあって、愛されている商店街だと感じます」とほほ笑む

塩良呉服店
渡辺武久さん

三八市で出会える人たち

月のうさぎ

その日、その季節のものを安く提供しています。いろんな年代の方と触れ合えます

青果 須藤商店

自分で作った野菜も販売しています。いつでもにぎわっているのがいいですね

野菜 後藤農園

おじいちゃんの代から三八市に来ています。菜っ葉付きの大根が人気です！

あげはん・かまぼこ 丸干蒲鉾

朝つくったできたてを持ってきています！たくさん買ってくださるのがうれしい

最もにぎわうのは10時30分〜11時。会話をしながらの買い物は、安心・安全。おまけなどのサービスがうれしい

花かつお マルヤス安田商店

直売はここだけなので、直接お客さんと話せて、リピーターの方と会えるのも楽しいです

商店街内にミニSLを走らせたり、一泊旅行に招待したりして、顧客との交流を大事にしていた昭和の終わりごろ。今なおその交流は形を変えて、受け継がれている

Information

寺町通り商店街

三八市
毎月3,8,13,18,23,28日開催
（1月3日は休み）

十楽市・寺町マルシェ
第3日曜開催
（12月〜2月は休み。
次回の開催は3月18日）

年末大売り出し
12月13日（水）〜18日（月）
昔ながらのガラガラ抽選会あり

文・写真／青野穂波　写真提供／塩良呉服店・井野美由紀　デザイン／ABBEY ROAD